

いきいきレポート

発行/中野・生活者ネットワーク TEL・FAX 03-5356-8356

▼大雨の時に川に下水が流れこむところ



▲調節池
上が公園になっている。大雨が降ると一時雨を溜めておく
◀川沿いの生垣。道路側から川が見えず危険!

の環境が理解できる「いろ

第3回は、前2回の講座を復習するとともに、第2回の宿題(妙正寺川の文化的景観をまちハイクへまちを歩きながら575で表

第1回は、文化的景観の読み解き方、環境修復を促す考え方、東京の近代化・都市化の歴史、都市河川の水質汚染と浸水リスクの因果関係を示した上で、中野区が神田川上流域に立地することを踏まえて、雨水を恵みにするまちづくりの概要を示しました。

第2回は、妙正寺川に沿って鷺宮・野方面をウォーキングしました。水害時の場所に適した鷺宮八幡宮の立地、河川改修工事現場、美鳩小学校の芝生の校庭、地下一時調節池と人工地盤の上にある区立せせらぎ公園など、河川とその流域の文化的景観を観察しました。さらに下水道台帳を参照しつつ、第4中学校周辺の雨水が合流式下水道を

連続環境講座報告

4月から6月にかけて開催された、中野ネット主催の連続環境講座「中野で雨を恵みにするためのまちづくり」(計3回)で講師を務めました。講座の目的は「雨水の行方」をテーマに、参加者が中野区の都市環境の課題を理解するとともに、地域の宝物を認識して改めて環境のまちづくりを考える契機とすることです。

環境カウンセラー・加藤まさみ(中野在住)

中野で雨を恵みにするまちづくり みんなまで考えよう雨水のゆくえ

探そう、地域の宝物



鷺宮から野方まで歩きました。お疲れ様

水対策を示すとともに、従来のコンクリート(グレイ)に替わるグリーンインフラという方法があることを紹介しました。細野かよこさんは中野区議会唯一、いち早くグリーンインフラの重要性を発信しています。

はカルタにまとめる計画です。近年、気候変動の影響を受けて台風や集中豪雨は激しさを増しています。また合流式下水道に起因して東京湾内お台場周辺(2020年東京オリンピックのトライアスロン競技会場)の水質が基準値を上回る大腸菌が検出されて話題になりました。中野区では雨水を恵みにする仕組みが十分に整っていないとはいえず、ほとんどが下水として処理されています。連続講座では、このような問題を踏まえ、参加者が個人でもできる雨

7月21日(金)19時から21時、生活クラブまちなかのとNPO法人中野・環境市民の会との共催で開催した夜の自然観察会は、約50人の参加でした。身近な自然・生き物の夜の様子を観察し、環境に興味を持ってもらうことが目的でした。

講師は(株)生態計画研究所主任研究員の奇二正彦さん。

衆議院議員選挙報告 大河原まさこさん 当選

10月22日投開票の衆議院議員選挙では、東京・生活者ネットワークは立憲民主党の候補者を推薦しました。

中野区では7区のながつま昭さん、10区の鈴木ようすけさんを応援し、ながつまさんは当選、鈴木さんは次点でした。

北関東ブロック比例では、立憲民主党候補の大河原まさこさん(元東京・生活者ネットワーク都議会議員・元参議院議員)が当選しました。市民の議席が衆議院に1つ増えました。

始めに奇二さんが、自身を「きんちゃんと呼んで」と語り掛け、子どもも大人も楽しく質問できる雰囲気を作ってくれました。セミやセミの抜け殻から雌雄を判断できる資料の提供や、抜け殻を毎日集めると、始めはオスが多いなど発見があるので自由研究にすると面白いなどのアドバイスもありました。セミの幼虫は7年間土の中で生きて、暑くなると夕方土から抜け出し木などに登り、約1時間ほ

どで羽化を始めるそうです。当日は幼虫が羽化してセミになるまでを低木でも沢山見ることができ、その神秘性に子どもも大人も興奮しました。



奇二さんの説明を聞く

夜の自然観察会

平和の森公園を探検しよう

報告



セミの羽化、こもりの鳴き声に、子どもも大人も興奮